

< 競技規則 >

【1】試合球は幼児の部は幼児用、それ以外の部門は3号球の公認球を使用する。

【2】試合は、幼児の部、パパの部、ママの部は6人制、
フレンドリーの部、小学生の部については8人制とする。

※小学生の部については6人以上で試合成立とします。

幼児の部はチームメンバー全員が出場できるようにし、外野人数が少ない方が
勝ちとする。

【3】試合中ベンチには、指導者・引率者・保護者代表者として、3名まで入ることができる。
但し、幼児の部は適応外とし保護者の方々にコート周囲を囲んでもらう。

【4】必ず体育館履きを着用すること。

【5】予選リーグから決勝戦まで1セット5分とする。(ランニングタイム)
全試合、1セットマッチとする。

【6】試合は予選リーグ、決勝トーナメントとする。

【7】予選リーグは総当たり戦を行い順位決定する。
全チームが決勝トーナメントに進出する。

【8】決勝トーナメントの組合せは、リーグ戦順位により決定する。

【9】決勝トーナメントでは各試合ごとに勝敗を決定する。
セット終了時に内野人数が同数の場合、Vポイントゲームを行い決定する。

(セット終了時のままジャンプボールで再開し、最初にアウトを取ったチームの勝ちとする)

【10】危険球、負傷など、状況に応じて審判が試合を止め安全確認を行う。

試合参加を続行するかは、指導者判断とする。この時に選手を交代させることはできる。
ただし、タイマーは止めない。

アウト・セーフの判定が必要な場合に限り、タイマーを止める。

【11】各試合ごとにメンバー交代はできる。

<試合ルール>

①外野は1名以上とする。

②試合開始と終了

- ・開始時は、各コートに選手が入り、座った状態で人数確認する。
- ・終了時は、内野と外野の人数確認後、主審の号令によりその場に立ちあいさつする。
- ・試合は、主審によるジャンプボールで始まる。
- ・ジャンプボールをキャッチした後、ジャンプボールをした人に当ててはいけない。

③危険球

- ・首から上にあたった場合は危険球とみなしセーフとし、あたったチームのボールとする。

④外野にいる選手は、相手にボールをあてなければ内野に入ることはいけない。

- ・元外野も当てなければ内野に入ることができない。

⑤外野で相手にボールを当てた時は、内野にすぐに入らないと内野には入れない。

⑥ボールを持っている選手がオーバーラインしたときは、相手ボールとなる。

- ・内野をこえて相手外野でボールをキャッチした場合は、相手内野ボールとする。
- ・幼児の部については、投げたボールによってアウトが発生した場合のみ、オーバーラインをとるものとする。

⑦ボールが外野に出た場合はすべて外野ボールとする。

(壁にボールが当たった場合も外野ボールとする)

外野⇄内野にボールが転がった場合は、ボールを手にした選手が投球できる。

⑧パスカウントは5回までとする。

(あきらかな時間かせぎ行為を禁止するためのもの。)

<コート>

■mについて 【午前】幼児の部:6m フレンドリーの部:9m パパ・ママの部:10m

【午後】小学生の部 低学年:9m 中学年:9m 高学年:10m

